

学生の確保の見通し等を記載した書類 目次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	2
①学生の確保の見通し	2
ア 定員充足の見込み	2
イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	3
ウ 学生納付金の設定の考え方	4
②学生確保に向けた具体的な取組状況	5
(2) 人材需要の動向等社会の養成	5
①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	5
②上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえた ものであることの客観的な根拠	6

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

平成 27 年に本学文学部の学部改組を行うまで、旧国際文化学科の「行動心理コース／心理学コース」を希望して入学する学生は、毎年学科定員の半数（20 名）に満たない状態であった。改組によって「心理学専攻」を設置して以降はこの状況が改善され、改組から 3 年目には在籍者数が 100 名を超え、8 年目の令和 4 年 4 月までに 323 名が入学している。単年度の入学者数では、心理学専攻設置から 2 年目の平成 28 年度に 40 名を超え、その後も毎年度 40 名程度を受け入れてきた。令和 3 年 4 月及び令和 4 年 4 月の入学者は、2 年連続で 50 名を超えている。

石川県内に所在する国公立大学では、本学の他、金沢大学、金沢工業大学、北陸大学、北陸学院大学が、公認心理師養成の学部カリキュラムを整備している。このうち心理学分野単独の教育課程を設置しているのは、本学と金沢工業大学、北陸大学である。金沢大学と北陸学院大学は、他の学問分野と合わせた学科を設置している。

金沢工業大学の公認心理師養成課程を有する情報フロンティア学部心理科学科の令和 3 年 5 月の在学者数は 1 年次 49 名、2 年次 50 名、3 年次 46 名、4 年次 43 名、合計 188 名（年平均 47 名）である。北陸大学では国際コミュニケーション学部心理社会学科に公認心理師養成課程が設けられているが、令和 3 年 4 月に設置されたばかりであり、令和 3 年 5 月の在学者数は 1 年次 46 名のみである。

金沢大学と北陸学院大学は、同じ学部に併設するその他の学問領域の専門教育課程との合計数となる。金沢大学では、人間社会学域人文学類に心理学プログラムが設けられており、当該プログラムを含む 7 領域で入学定員を設定している。令和 3 年 5 月の在学者数は 1 年次 131 名、2 年次 146 名、3 年次 152 名、4 年次 186 名、合計 615 名である。これらの在籍生が各領域に均等に在籍すると仮定するならば、1 領域あたり 1 学年 20 名程度となる。北陸学院大学では、人間総合学部社会学科に公認心理師対応カリキュラムが設けられている。社会学科には心理学を含む 5 コースが設置され、令和 3 年 5 月の在学者数は 1 年次 82 名、2 年次 113 名、3 年次 75 名、4 年次 75 名、合計 345 名である。これらの在籍生が各コースに均等に在籍すると仮定するならば、1 コースあたり 1 学年 17 名程度となる。

以上の数値を単年度で合計すると、心理学分野を修めた卒業生数は、本学を含む 5 大学で毎年 130 名程度となる見込みである。

これに対して、公認心理師養成課程を持つ大学院修士課程を設置しているのは金沢大学と金沢工業大学のみである。金沢大学では令和 4 年 4 月に人間社会環境研究科人文学専攻に公認心理師養成課程が設置された。当該の専攻の定員は 23 名であるが、これは公認心理

師養成課程を含む 17 領域の合計である。金沢工業大学では、大学院心理科学研究科の入学定員は 6 名である。したがって、約 130 名の学士課程卒業見込みに対して、大学院修士課程の入学定員は 8～10 名程度にすぎない。

隣接する富山県では、富山大学人文学部心理学コース及び大学院人文社会芸術総合研究科心理学プログラム（修士課程）に、公認心理師養成課程が設置されている。修士課程は令和 4 年から改組され、心理学プログラムの定員は 5 名である。人文学部心理学コースの公認心理師養成課程対応も令和 4 年からであるため、修士課程入学者は当分の間他大学からの進学希望者に限られる。富山県内には他に公認心理師養成課程を持つ大学・大学院は存在しない。福井県では、仁愛大学人間学部心理学科及び大学院臨床心理学専攻に公認心理師養成課程が設置されている。心理学科の定員は 95 名、大学院臨床心理学専攻の定員は 12 名であるが、令和 3 年度の大学院の入学者数は 6 名となっている（資料 1）。

金沢大学及び富山大学については、本学を含む石川県内の他の私立大学とは学生の学力層が異なっており、大学院選抜において競合する可能性は低いと考えられる。本学文学部文科学科心理学専攻の入学者には、従来石川県内と富山県内の高校から進学してきた学生が多いが、石川県については、金沢大学は学力層が異なっていること、他の私立大学については、学部の入学者数が本学とほぼ同程度であり、現時点では本研究科に新たに設置する心理学専攻と金沢工業大学以外に大学院の選択肢がないことから、石川県内からの入学者は確保できると考えられる。富山県については、公認心理師養成課程を持つ大学・大学院が富山大学 1 校のみであり、学力層も異なっていることから、富山県内から本学に進学してきた学生は、大学院進学の際に本学を選択することが見込まれる。

#### イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

令和 4 年 3 月末に、本研究科心理学専攻の基礎となる本学文学部心理学専攻在学生のうち、令和 4 年度の新 4 年生及び新 3 年生に、公認心理師養成課程に対応することを説明した上で、「大学院人文学研究科心理学専攻の設置に関するアンケート」を実施した。回答が得られたのは、4 年生 22 名、3 年生 36 名であった（資料 2-1、資料 2-2）。

本学人文学研究科心理学専攻への進学を「希望する」または「検討する」と回答した在学生は、4 年生 9 名（40.1%）、3 年生 13 名（36.1%）であった。このうち、合格した場合に進学を希望すると回答したのは、4 年生 4 名、3 年生 11 名であった。アンケートを実施した時点で、4 年生はすでに複数の学生が就職内定を得た状態であったが、その状態でも進学希望者 4 名を確保できており、定員 4 名を充足することは可能であると考えられる。

また、本学人文学研究科心理学専攻の受験及び進学について尋ねる項目に、いずれも「検討する」と回答した学生 7 名のうち 4 名は、進学先を決定するために重視する事柄として「学校の所在地」を挙げている。学士課程から引き続き同じ校地での学修・研究活動を続け

られることは、こういった大学院の立地を検討材料とする学内出身者には有効に働くと考えられる。

「ア 定員充足の見込み」で述べたように、公認心理師養成課程及び心理学を専修する修士課程を持つ大学・大学院は、石川県・富山県ではかなり限定されている。本学の教育理念は「創造」であり、これを実現するための実践として、

- 一、「ふるさとを愛し、地域社会に貢献する」
- 一、「良識を培い、礼節を重んずる」
- 一、「社会の要請に応え、構想する力、実践する力を育む」

の3項目を掲げている。

本学の教育理念及び、その実現のための実践の方針に鑑み、社会の要請に応え、地域社会の心理・社会的健康を支える人材の育成、並びに研究者として自らの研究成果を地域に還元できる人材の養成を目指す。

#### ウ 学生納付金の設定の考え方

人文学研究科心理学専攻における学生納付金は、下記のとおりとする。

(表1 本研究科心理学専攻の学納金)

区分	金額
入学金	200,000 円
授業料 (年間)	590,000 円
教育充実費	300,000 円
初年度納付金合計	1,090,000 円

本学大学院の初年度納付金は以下の表2の通りである。心理学専攻の入学金、授業料、教育充実費は、他の専攻や研究科と同程度としている。なお、実習費については、実習施設との協議の上、別途設定する。

(表2 本大学院の初年度学納金)

研究科専攻名称	入学金	授業料	教育充実費	合計
経営情報学研究科 経営情報学専攻	200,000	590,000	320,000	1,110,000
人文学研究科 人文学専攻	200,000	590,000	300,000	1,090,000
スポーツ健康学研究科 スポーツ健康学専攻	200,000	590,000	320,000	1,110,000

また、近隣の大学院の初年度学納金は、表3の通りとなっている。競合が予想される金沢工業大学大学院心理科学研究科で初年度納付金126万1千円および実習費となっている。

本学の学生納付金との相違点は教育充実費が無い点であるが、その分授業料が高く設定されているため総額はほぼ等しくなっている。よって、本学が設定した学納金について妥当性があると考えている。

(表3 本大学院周辺の心理学系の課程を持つ大学院の初年度学納金)

研究科専攻名称	入学金	授業料	教育充実費	合計
金沢工業大学大学院 心理科学研究科 臨床心理学専攻	250,000	1011,000	—	1,261,000

## ②学生確保に向けた具体的な取組状況

学内においては、本研究科心理学専攻の基盤となっている本学文学部心理学専攻の学生に対して大学院説明会を開催する。特に、最終学年で予定している「心理実習」を履修する学生に、大学院の概要及び募集について丁寧に説明していく。

学外向けには、本学が継続的に開催している高等学校等への進学説明会での案内、オープンキャンパスでの案内等を実施する。本学大学院では、大学院のみを紹介するキャンパスガイド(冊子)を作成している。公式ウェブサイトの大学院の学生募集情報の更新と合わせ、広く本研究科心理学専攻の入学及び学生募集に関する情報も公開していく予定である。

## (2) 人材需要の動向等社会の養成

### ①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

本研究科心理学専攻においては、「心理学に関する高度な専門知識と技能、研究遂行能力を有し、科学的な態度を持って、さまざまな心理・社会的問題の解決に貢献できる人材を育成する」ことを目的とする。

これに基づき、障がい者、高齢者、子どもなど多様な心理的支援を要する者に対して、専門的知識・技能を以て対応し、心理的困難の解決や地域の心理的健康の増進に貢献するための教育課程を設ける。科目担当教員の専門領域を中心に、本研究科心理学専攻の基礎となる本学文学部文学部心理学専攻の学修内容を発展させ、より高度な知識や技能、実証研究の技法を修得させる。教育課程には講義・演習科目と実習科目を設け、特に実習科目においては、心理専門職に求められる職業倫理を大原則とし、臨床的介入の対象者が抱える心理社会的問題や課題、対象者の家族等の周囲の人々の問題・課題を適切に査定して科学的根拠を固め、これに基づく臨床活動を行う能力、並びに問題解決能力、応用力、判断力を涵養する。具体的には、心理に関する支援を要する者等に関して、多様な特性を持つ人々と適切なコミュニケーションを取る能力や、心理検査・心理面接を通して、支援を要する者の特性を把握・理

解し、ニーズを把握し、適切な支援につなぐ能力を身につけさせる。また、多職種連携・地域連携による支援における心理専門家の責務を理解し、実践する能力も養成する。具体的には、他分野の専門家と協働するチームアプローチの中で活動する能力、地域に存在するリソースを活用する能力を身につけさせる。さらに、支援・援助において公認心理師としての職業倫理及び法的義務を理解し、適切な活動を行える態度を涵養する。

このような実践的能力を備えた心理専門家の養成の一方で、研究の実践能力についても高めていく。大学院生各自の研究課題について、主体的・能動的に取り組む教育方法を積極的に取り入れ、自ら考え、問題や課題を発見し、その解決に向かうための能力及び姿勢を涵養する。これらの科目で培った知識・技能を実習や特論演習に還元することにより、理論と実践を統合し、心理臨床の本質を理解することにつなげていく。

②上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

「こころの専門家」を取り巻く社会情勢として、この10年あまりでメンタルヘルスや学校臨床(発達障害等)の重要性が叫ばれるようになった。気分障害患者の著しい増加や、発達障害やいじめへの対応等の学校臨床現場における心理専門家へのニーズの高まり、認知症や高次脳機能障害といった医療・リハビリテーション分野での支援のニーズ、近年大規模化する傾向がある自然災害での被災者のメンタルケアなど、教育現場や地域で心理学的な支援を必要とする要支援者は、拡大・増加している。

この状況にあって、北陸3県(石川・富山・福井)の公認心理師は、令和3年4月現在で、石川県で登録されている公認心理師は312人である。隣接する富山県では233人、福井県では283人が登録されている。令和元年4月現在の公認心理師1人あたりの人口を算出すると、石川県では4,153.3人で、これは全国で25番目に多い数値である。富山県では5,523.8人(7番目)、福井県では3,268.1人(40番目)となっている。特に石川県と富山県の公認心理師数は少なく、専門家の育成及び配置が急務であると言える(資料3-1、3-2)。

しかしながら、公認心理師の養成課程を持つ大学院は、石川県内には金沢大学と金沢工業大学の2校のみで、入学定員も8~10名程度である。富山県内では富山大学が養成課程を置いたばかりであり、他に養成課程を持つ大学は存在しない(資料1)。

本学が人文学研究科心理学専攻を設置することにより、石川県・富山県において地域の心理的健康の増進や、心理的支援・援助に従事する専門家を養成して、高等教育・高度専門教育の成果を地域に還元することができると思う。